

指定管理者総合評価シート

様式 4

施設名	成田市のぞみの園		
指定管理者	社会福祉法人 大成会		
指定期間	平成 29 年 4 月 1 日	～ 令和 4 年 3 月 31 日	3 年目
施設所管課	福祉 部 障がい者福祉 課		

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
I 実施体制に関する評価	施設管理	協定書等に従い、開館日や開館時間等を遵守しているか	A	A
	人員体制	仕様書等に従った人員(人数、有資格者)を配置しているか	A	A
		スタッフのシフトは適正であるか	A	A
		事業計画書に則した内容・頻度で教育・研修を実施したか	A	A
	利用料金	利用者からの料金徴収や現金管理等が適切に実施されているか	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切か	A	A
		外部委託事業者に対して協定書等を遵守させているか	A	A
	記録管理	業務日誌等を適切に作成・保管しているか	A	A
		点検、修繕等の履歴を適切に整備・保管しているか	A	A
	報告書提出	協定書等で定められた事業計画書・報告書等は提出しているか	A	A
	連絡調整	市や関係団体等との連絡調整を適切に行っているか	A	A
	危機管理	危機管理に関するマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っているか	A	A
		避難経路は適切に確保されているか	A	A
		事故、災害等の緊急時の連絡体制が確立されているか	A	A
	個人情報保護	個人情報等の管理は適切か	A	A
		個人情報保護に関する規程が整備されているか	A	A
		情報漏えいを防止する仕組みや対応策が構築されているか	A	A
	情報公開	情報公開に関する規程が整備されているか	A	A
		協定書等に従い、情報を適切に管理しているか	A	A
	その他		—	—
	【総括 I】	実施体制の履行状況に関する評価(標準 19 項目・本施設 19 項目)	A	
	指定管理者の自己評価	協定書、仕様書等に従い施設運営を行なった。建物の老朽化が進み、不具合が出てきているが、建物の劣化診断や市への報告を通して、市に修繕をお願いできるところは対応いただいた。負傷等の事故が発生した際は、その都度障がい者福祉課等関係機関への報告を行なった。流行性疾患については、数名の罹患者が出てしまった。		
	施設所管課の評価	防災マニュアルは震災を主眼とする内容となっているが、昨年9・10月の台風15号・19号上陸前後の対応を踏まえ、風水害など震災以外に対応した内容に見直す必要がある。また、年度末には新型コロナウイルスの感染拡大により、福祉施設での感染防止対策が急務となった。今回実施した感染防止対策をもとに、翌年度にマニュアルの整備やマスク等の備蓄品の確認をされたい。		

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
II サービスの内容や水準に関する評価	利用者対応	施設の予約や利用等が、公平かつ適切に実施されているか	A	A
		言葉遣い、態度、服装等の接遇は適切であるか	A	A
	利用案内	ホームページは計画どおりに運用されているか	A	A
		利用方法をわかりやすく説明できる仕組みが構築されているか	A	A
	利用状況	施設の利用者数や稼働率は適正であるか	A	A
		利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか	A	A
	事業の実施	事業計画書に則し、指定事業を実施しているか	A	A
		施設の目的に沿って、自主事業を実施しているか	A	A
		各事業の参加者数は、計画どおりであるか	A	A
		参加促進への取組を積極的に実施しているか	A	A
	環境への配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされているか	A	A
	苦情等の対応	苦情や要望等に対して迅速かつ適切に対応しているか	A	A
	利用者への調査	利用者満足度調査を実施し、その結果は妥当であるか	A	A
		利用者からの意見や要望等について、可能なものは反映させているか	A	A
	維持管理	施設、設備の保守管理(点検・修繕)、定期清掃を計画的に実施しているか	A	A
		日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか	A	A
		備品台帳により記録が適切に保管されているか	A	A
		市と指定管理者の備品が明確に区別されているか	A	A
		必要な修繕を適切に行い、市に報告しているか	A	A
	その他		—	—
	【総括 II】	サービス等の内容や水準に関する評価(標準 19 項目・本施設 19 項目)	A	

評価	指定管理者の自己評価	令和元年度は、利用者の入退所が多く、理由はそれぞれ様々であるが、結果として定員を割って年度を終了した。出勤率(稼働率)も下がっており、89.4%と前年度を大きく下回ってしまった。今後についても利用者獲得への取り組みを継続していく。就労支援については、一般就労者を出すことが出来た。
	施設所管課の評価	年度中の退所者(市外転出、死亡等)が例年よりも多かったため、定員が50名を割っている月が続いた。定員の増加及び稼働率の上昇を図るため、新規利用者の獲得を図るとともに、就労継続支援B型事業所として一般就労に向けた支援をより充実されたい。

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
Ⅲ 収支等に関する評価	経理事務	指定管理に関する経費と団体の経費を区別して、適正に管理しているか 専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理処理を行っているか 料金徴収、減免、還付の手続きは適切に処理していたか	A	A
	予算執行	収支計画書に則し、適正に予算を執行しているか 収支計画と事業計画の整合はとれていたか	A	A
	経費節減	経費削減に向けた取組を積極的に実施し、その効果が上がったか	A	A
	その他		—	—
	【総括 Ⅲ】	収支等に関する評価(標準 6 項目・本施設 6 項目)	A	
	指定管理者の自己評価	利用者減による事業収入の減収はあったが、送迎ルートを増設や休日営業プログラムの見直し等を行ない、利用しやすい施設・楽しい施設を目指した。平均工賃月額については、前年度並みの実績を上げることができ、報酬単価を維持することができた。		
	施設所管課の評価	事業計画・収支計画と事業報告を比較すると、収入面が全体として落ち込んでいる。また、送迎ルートや休日営業プログラムの見直しを実施しているとの自己評価だが、半年に1回の個別面談等により、利用者等のニーズを踏まえて支援方法を随時見直すとともに、一般就労への移行を推進することができるよう、事業計画に沿った支援を実施されたい。		

評価項目		評価基準/目標は達成されたか	数値目標	自己評価	所管課評価
Ⅳ 目標管理に関する評価	目標①	利用者の工賃配分金を支払うために必要な売上の確保(平成31年度 利用者54名想定 総支払額16,200,000円)	総売上目標47,700,000円(経費66%以下)	B	A
	目標②	利用者の月額平均工賃目標達成。	月額目標25,000円	B	A
	目標③				
	【総括 Ⅳ】	目標管理に関する評価(標準 2 項目・本施設 2 項目)	A		
	指定管理者の自己評価	目標①については、総売上46,553,919円 経費率69%で目標を僅かながら達成することができなかった。目標②については、年度末に支払った賞与も含めて月額平均23,966円を支払うことができた。目標を達成することができなかったが、平均工賃月額の算出除外要件に当てはまるものを除いた平均支給額は25,014円となり、次年度に向けた基本報酬単価を維持することができた。			
	施設所管課の評価	総売上及び経費率については、年度当初の数値目標には届かなかったが、目標値の97%を達成している。自主生産事業(プリント業務)及び受託事業(チラシ折込業務等)のいずれも収益が落ち込んでいることから、社会情勢やニーズ等を見極め、新たな受託事業の検討や自主生産商品の販路拡大等を図っていただきたい。月額平均工賃は、目標値を上回っており、県内の就労継続支援B型事業所における平均工賃を上回っていることから、引続き安定した工賃の支給に努められたい。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、航空関係の受託事業や施設外での自主生産品の販売等が中止となったため、翌年度の目標達成は困難と思われる。指定管理事業を継続して実施することができるよう、市と指定管理者が連携を図り、管理運営を行いたい。			

V	【総合評価】	I～Ⅳの総括による総合評価	A
---	--------	---------------	---

Ⅵ 特記事項	特に評価される点	千葉県内の就労継続支援B型事業所における平均工賃月額(平成29年度)の14,308円は大きく上回っており、高い水準で推移している。また、利用者1名が一般就労に移行することができている。
	改善が望まれる点	工賃を支給する自主事業部門と訓練等給付費の事業収益部門のいずれも、収益額が落ち込んでいる。昨年度は年度途中での退所者が多く、退所については予期できない場合もあるが、定員を満たした上で運営することが望ましい。